

最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

同じ時代を生きる

横浜市立勝田小学校（都筑区）

四年 小川 順 正

二年前の夏休み、ぼくは母の働く老人ホームにボランティアに行った。母が仕事をしている間、ぼくは、おじいさんたちとボードゲームをして遊んだ。昔、電気メーカーで働いていたというアオキさんは、ゲームの中でサラリーマンから社長になった。サッカーが好きなミヤザワさんは、スポーツ選手になった。ゲームの中では自由に夢が叶ってとても楽しい時間だった。

今度はぼくが、「子どものころどんな遊びをしていたのですか。」と聞くと、おじいさんたちは、少しこわい顔をした。そして、ぼくと同じ年ごろに戦争があってほとんど遊べなかったと話してくれた。戦争は遠い昔の事だと思っていたぼくは、悪い事を聞いてしまったと思

った。そしてその日いっしょに遊べたことがなんだかとてもうれしく思えた。暗い顔をしたぼくを笑わせようと、たった二日間で校庭をイモ畑にした話をしてくれたサコタさんのドヤ顔はとてもやさしかった。

その年の二月、ぼくの通う小学校がとっぜん休校になった。新型コロナウイルス感染症のきん急事たいせん言が出されたからだ。出せない宿題、やりかけのレクのじゅんび、友だちにも先生にも会えなくなつた。

それなのに、母の仕事はかわらなかつた。コロナウイルスからみんなを守るため毎日大変そうだった。母の作ったおべんとうを食べながら、ぼくはいっしょに遊んだおじいさんたちのことを思った。みんなはどうしているだろうか。

コロナと戦う毎日、おじいさんたちが体験した戦争ににている気がする。今はがまんが Continuing、いつかその苦勞を笑って話せる日が来るから。そう教えてくれたおじいさんたちとぼくは今同じ時代を生きている。いっしょにコロナをのりこえていこう。